

「市民協働のまちづくりを」

仙北市長 門脇 光浩

平成30年の年始めにあたり、市民の皆さまに新年のごあいさつを申し上げます。旧年中は市政各般にわたってご尽力をいただき、誠にありがとうございました。今年が皆さまにとつて佳き1年となるよう、職員ともども一層の努力を重ねます。ご指導をよろしく願います。

昨年は、市立角館総合病院の移転改築、西木温泉ふれあいプラザクリオンのプール竣工、田沢湖クニマス未来館のオープンなど、懸案の施設整備の幾つかを終えることができました。現在は角館庁舎の移転改築や新給食センターの建設、さらには総合体育館の実現に向けた準備を進めています。事業の進行中、多様なご意見を頂戴しています。将来を予測し、近視眼的にならないよう、未来の市民にも評価をいただけるよう、しっかりと取り組みます。

一方で、辛い事案も多く発生しま

した。クマの出没が相次ぎ、本当に悲しい事故が続きました。また、7月・8月の大雨では、市内各地で大きな被害が発生し、爪痕を残したまま年を越した方々もおおいです。異常気象は農作物に悪影響をおよぼし、稲作は「やや不良」でした。観光客数を見ると、国外からのお客さまは格段に増えましたが、地元の消費活動に繋がらなかった場面が多く、市内の経済情勢は、マスコミが言うような「緩やかな持ち直し」には至っていないと感じています。

課題はまだあります。人口減少・高齢社会への対応、雇用の場と人材の確保、空き家や不在地主の増加、福祉力の維持、水と森林保全、上下水道の確保、学校の適正配置、子育て支援、移動手段の再構築、防災対策…、どれも深刻です。

加えて、今年から政府の米政策が大きく変わります。これまでは国が

生産数量目標を配分してきましたが、これを止め、同時に米の直接支払交付金も廃止されます。水田活用の直接支払交付金、畑作物の直接支払交付金（ゲタ対策）は継続し、産地交付金は中身を少し変えながら実施するとの内容です。需要が年間8万ト

ン減少している主食用米ですが、水田を守り活用するために、麦や大豆、飼料作物、飼料用米への転換を誘導する政策に舵を切ったカタチです。国からの情報が不足していることもあり、農家の皆さまは不安な年明けになったと思います。

仙北市は国・県の事業導入に加え、市独自の取り組みとして、間もなく完成する堆肥処理施設を活用し、良質な堆肥を適正に使用した土づくり・農作物づくりを進めたいと考えています。また、ほ場整備として中山間地の条件不利地を対象に、農地の区画拡大を進め、意欲ある農業者が農業を継続できる環境整備の支援を予定しています。その他、観光と連携した農業展開の実現、学校と連携した若年時代からの担い手育成、市外からの就農希望者の受け入れ、不要となっ

た農業資機材を必要な方へ橋渡しする仕組みづくりなどを検討中です。

これまでは、他市と比較して底上げが必要な分野（福祉や健康や子育て）で、支援の拡充に努力してきました。次は仙北市の強みを再強化する作業です。市総生産額の30パーセントに関係するといわれる観光分野は、地域の経済再生と雇用創出に大きな可能性が広がっています。規制緩和や先端技術を活用し、市民協働・チーム仙北で挑戦を続けます。

農業・観光分野に限らず、平成30年度は所得や雇用対策、災害防止ほか日常生活の維持向上など、基本的な役割を重視した市政に立ち返ります。同時に人育てとまち育てを本格化します。必要な財源は、公共施設の改廃や市有財産の売却、単独補助金の見直しなどで捻出します。国からの地方交付税は減額が確実です。市財政の大きな課題となっている市税や各種使用料の滞納には、組織再編で新課を立ち上げ、強い姿勢で徹底した収納対策にあたります。

市民の皆さまのご協力を、どうかよろしく願います。